

地元小学生と森林とのふれあいについて

小諸市 農林課 主 事 ○
事務主任

さくらい としはま
櫻井 俊幸
はしもと てつお
橋本 哲夫

要旨

小諸市では国有林を活用させていただき、小学生を対象に森林教室を実施しています。開催にあたり、国・県・森林組合・ボランティア団体等多くの皆様にご協力をいただいたことにより充実した内容で実施することができましたので報告します。

はじめに

小諸市では昭和63年から市内にある6つの小学校から1年に1校ずつ、5年生を対象に小学生と森とのふれあいの機会として森林教室を開催して参りました。平成11年度から地元国有林を利用させていただき、林務行政に関係する各機関の協力を仰ぎながら森林教室を開催しております。開催までの経過と実施内容について発表いたします。

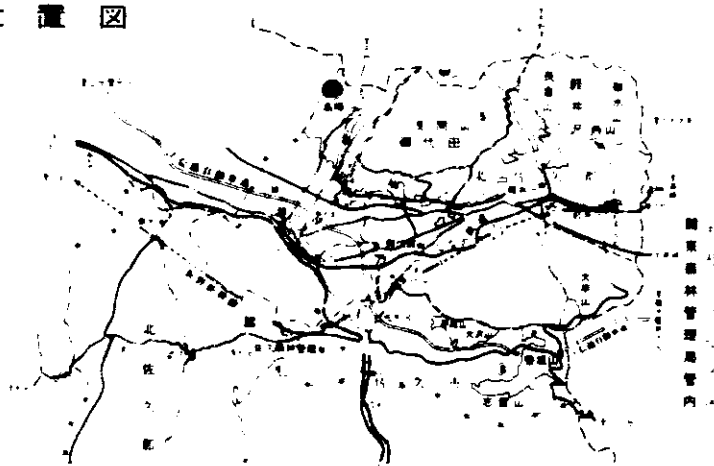
国有林を実施場所として選定した経過

国有林を実施場所として選定した経過についてですが、平成10年度までは市外の林業施設に依頼し木工教室やネイチャーゲームを行ってきましたが、近年里山の荒廃が深刻な状況となっていることから、地元の森林に少しでも関心を持ってもらえたらと考え、市内での開催を企画いたしました。実施場所の選定にあたり当初は民有林で適地を捜していましたが、佐久森林管理センターに相談したところ、国有林の利用を提案いただき、国有林での開催となりました。

森林教室の実施内容（平成12年度）

実施場所 高峰国有林内1500m林道に隣接した6林班

位置図



(位置図)

実施日	平成12年9月21日(木)
実施小学校	小諸市立野岸小学校
児童数	5年生(2クラス) 75名
森林教室のメニュー	<ul style="list-style-type: none"> ① 森林の公益的機能の説明 水源の涵養・保水機能・二酸化炭素の吸収などについて説明 ② 林業作業の体系について説明 植栽から間伐、収穫までの作業の必要性について説明 ③ 林内散策を兼ねたネイチャービンゴゲーム 林内にあるキノコや動物の足跡等を捜すビンゴゲーム ④ 11年生カラマツ人工林の除伐体験 2人で1本を伐採



写真-1



写真-2

森林教室の開催にあたっての問題点

- ・市職員の知識・経験の不足

市の職員の職務は多分野にわたっており、林業関係の専門的知識の取得が困難。

- ・指導者数の不足

森林教室での体験の内容が樹木の伐採や傾斜地での林内散策であるため、安全面を考慮すると児童6人程度に対し講師1名が必要であり、森林教室の経験がある「佐久森林管理センター」「佐久地方事務所林務課」「佐久森林組合」そして、小諸市の森林ボランティア団体の「森林の会」に協力を依頼しました。

各関係機関に協力いただいた内容及び効果

(内容)

佐久森林管理センター	<input type="checkbox"/> 森林教室全般のアドバイス <input type="checkbox"/> 除伐体験の指導
佐久地方事務所林務課	<input type="checkbox"/> ネイチャービンゴゲームの企画、進行
佐久森林組合	<input type="checkbox"/> チェーンソーや下刈機の実演指導 <input type="checkbox"/> 除伐体験での安全面の指導
森林の会	<input type="checkbox"/> 除伐体験での安全面の指導

(効果)

各関係機関が専門分野を担当していただくことにより当初の企画より充実した内容の森林教室が開催できました。

子供達から感想文が寄せられていますので一部紹介します。

- ・ネイチャーゲームを通じ、森林内で様々な生物や植物に触れることが出来、楽しかった。
- ・森林が私達の生活に欠かせない重要な機能を持っていることがわかった。
- ・木を切ることは環境破壊だと思っていたけれど、森林を育てるためには必要であり、林業が大切な仕事だと感じた。

これらは、ほぼすべての児童の感想であり、開催側としては「森林にふれあうことの楽しさ」「森林の重要性、役割」「林業の必要性」を子供達に伝えられたことで十分な成果を得られたと考えています。

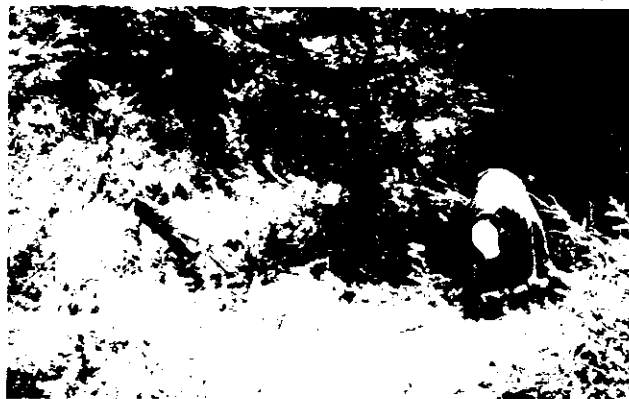


写真-3



写真-4

今後の目標と課題

現在は1年に1校ということで森林教室を開催しておりますが、PTAと市長の懇談会の席で「私達の学校でもやってほしい」という意見が多くての父母から寄せられ、関心の高さがわかりました。今後は次第に拡大し、市内の全ての小学校を対象に開催できるよう努力していきたいと考えています。

目標達成にあたっての課題

(ソフト面)

今後も各機関と連携を持つことによって、子供達にとってより良い森とのふれあいの機会を提供できるように、また、子ども市職員の勉強の場となる様、各機関の協力を頂いていきたいと考えています。

(ハード面)

森林教室を開催できる多様性を持った森林の整備が出来ればと願っています。さしあたり、「除伐体験が出来るゾーン」と「子供達が山に入ってドングリやキノコを採取したり、昆虫など生物に親しめるゾーン」を計画的に造っていければ良いと考えています。いつでも森とのふれあいが出来る場が提供できたら子供達にとって森林が今以上に身近になり、素晴らしいもの、また、心のよりどころとなることと思います。

それには、国有林に関係する皆様のご協力はもちろん、地方事務所・森林組合など山に関わっている方々の力を欠かすことが出来ません。

おわりに

子供たちの笑顔と、歓声が山々に響き渡るのが今でも心に残っており、開催してよかったと思える森林教室となりました。協力いただいた関係機関に感謝申し上げ発表を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

